

2015年4月10日



Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A

Treasury Department
Av. Paulista, 1274 – Bela Vista
São Paulo, SP – 01310-925

1. マーケット・レート

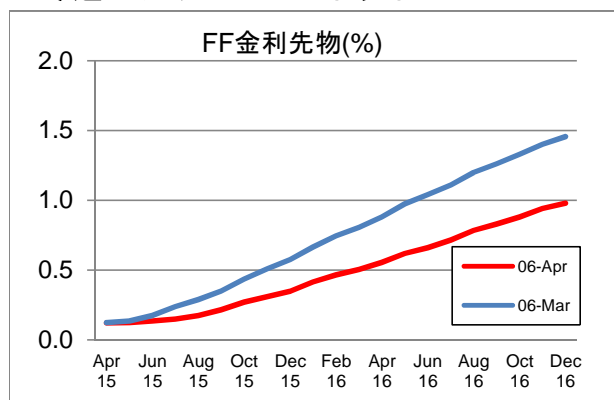
			4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月10日	Net Chg
為替	USD/BRL	Spot	3.1260	3.1290	3.0490	3.0570	3.0750	+0.0180
	BRL/JPY	Spot	38.26	38.43	39.37	39.42	39.09	-0.33
	EUR/USD	Spot	1.0925	1.0814	1.0781	1.0659	1.0603	-0.0056
	USD/JPY	Spot	119.47	120.31	120.13	120.57	120.20	-0.37
金利	Brazil DI	6MTH(p.a.)	13.27	13.03	13.17	13.22	13.22	+0.0050
	Future	1Year(p.a.)	13.34	13.23	13.22	13.26	13.25	-0.0100
	On-shore	6MTH(p.a.)	1.878	1.854	1.717	1.739	1.872	+0.133
	USD	1Year(p.a.)	2.525	2.513	2.386	2.415	2.557	+0.142
株式	Bovespa指数		53,737.26	53,729.16	53,661.11	53,802.66	54,214.11	+411.45
CDS	CDS Brazil 5y		256.53	254.99	234.50	236.56	249.50	+12.94
商品	CRB指数		220.021	221.848	216.397	216.134	217.124	+0.990

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

2. 週間市況、トピックス

- 今週のドルレアルは先週金曜日のマーケット休場中に発表された米3月雇用統計が予想よりも非常に弱かったことを受けて、大きくドル安方向に窓を開けて3.0880で寄り付いた。しかし、下がった所でのドル買い意欲は根強く、窓を埋めに行く動きとなった。更に、弱い3月雇用統計は、季節要因の一時的なものだったとの見方が広がると、ドルが続伸し、レアルは週間安値となる3.1460を示現した。しかし、サウジアラビアがアジア向け原油価格を引き上げたことや、米エネルギー情報局が米国の原油需給がタイトになるとの見通しを発表したことを受けて、原油価格が上昇するとレアルは反発した。
- 週央からはFRB関係者の講演やFOMC議事録を受けてFRBの利上げが当初の想定よりも後倒しとなり、利上げペースも緩やかになるとの見方が強まると、ドルが売られてレアルは3.10を上抜けた。更に、ブラジル下院の主要議員が歳出増加を回避するコミットメントにサインしたとの報道などを受けてブラジルの財政調整が進むとの期待感が高まると、レアルは続伸し、約1ヶ月ぶりの高値となる3.0240を示現した。
- 週末にかけては大手格付け会社のフィッチが、マクロ経済の不均衡や財政の悪化を理由にブラジルの格付け見通しをネガティブに引き下げたことを受けてレアルは弱含みの展開となった。更に米国の新規失業保険件数が予想を上回る強い内容となったことを受けて、短期筋の利益確定のドル買戻しが出て、レアルは反落した。結局3.0750で越週となった。

3. 今週のチャート&ハイライト



出所: Bloomberg

FRB早期利上げ観測が後退

左のチャートはCBT上場のFF先物を2月雇用統計発表後(3/6)と3月雇用統計発表後(4/3)で比較したもの。各限月のFF実効レート翌日物の単純平均に基づいて差金決済されるもので、マーケットが将来FFがどれ位になると予想しているかを見る指標となる。先週末に発表された米雇用統計が予想を大きく下回ったことで、利上げ期待が大きく後退したことが分かる。ボブスバ指数は米国への資金還流が緩むとの思惑から昨年12月以来の高値をつけ、53,000から54,000近辺で高止まりしている。

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべて お客様御自身でご判断下さい。宜しく願い申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は 著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。

2015年4月10日



4.来週の為替市場注目点

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A

Treasury Department
Av. Paulista, 1274 – Bela Vista

予想ドル・レアル相場レンジ：3.00－3.30

今週のドルレアルは米国サイドの材料に大きく振られる展開となった。3月米雇用統計が急減速したことから、FRBの利上げ開始時期とその後の利上げペースに対してハト派的な見方が強まっている。悪い数字は悪天候の影響を受けた一時的なものとの見方もあり評価は分かれているが、少なくともここから減速基調に入っていくと見る声は少ない。昨今のドル売りは2月から進んできたドル高の利益確定の動きとも取れる。来週は各エリアの連銀総裁の講演が相次ぐため、利上げに対する思惑が交錯して不安定な相場が続くそうだ。

ブラジルサイドの材料としては、少しずつ進展はあるものの財政改革への調整にはまだ時間を要すると見られる。格付け見直し引き下げもあり、引き続きレアルは買い材料に乏しい。ドルの売り調整の中でレアルが上がることはあろうが、レアル主導でレアルが上昇するのはまだ先と見ている。また、今週末の日曜日には大規模な反ルセフ大統領のデモがサンパウロで予定されており、現地の軍警察によると、3月にあった大規模デモの規模を上回る可能性もあると指摘されている。週明けの値動きには注意が必要である。

5.本日の主要経済指標

国	イベント	予想	実績	前回
ブラジル	IGP-M Inflation 1st Preview	0.75%	1.03%	0.74%

6.来週発表される主要経済指標

国	日付	イベント	期間	予想	前回
ブラジル	4/13	登録雇用創出合計	Mar	-20400	-2415
ブラジル	4/13	貿易収支(週次)	Apr-12	--	\$389M
ブラジル	4/14	小売売上高(前年比)	Feb	-2.10%	0.60%
ブラジル	4/14	広義小売売上高(前年比)	Feb	-9.6%	-4.9%
米	4/14	小売売上高速報(前月比)	Mar	1.0%	-0.6%
ブラジル	4/15	税収	Mar	--	89982M
ブラジル	4/15	FGVインフレ率IGP-10(前月比)	Apr	1.15%	0.83%
ブラジル	4/15	経済活動(前月比)	Feb	-0.25%	-0.1%
EC	4/15	ECB主要政策金利	Apr-15	0.05%	0.05%
ブラジル	4/16	FGV CPI IPC-S	Apr-15	1.01%	1.22%
米	4/16	住宅着工件数	Mar	1040K	897K
米	4/16	新規失業保険申請件数	Apr-11	280K	281K
ブラジル	4/17	FIPE CPI-週次	Apr-15	0.81%	0.68%
ブラジル	4/17	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	Apr	1.0%	1.2%
米	4/17	消費者物価指数(前月比)	Mar	0.3%	0.2%

当資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定のお客様のニーズ、財務状況又は投資対象に対応することを意図しておりません。また、当資料は、適用法令上許容される範囲内でのみ利用可能であり、当資料の頒布を制約する法令が存在する地域の方によって利用されることを意図しておりません。当資料内のいかなる情報又は意見も、預金、有価証券、デリバティブ取引その他の金融商品の売買、投資、保有などを勧誘又は推奨するものではありません。資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性、適時性、適切性又は完全性を表明又は保証するものではなく、当行、その子会社又は関連会社は、お客様による当資料の利用等に関して生じうるいかなる損害についても責任を負いません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料の内容は予告なしに変更することがあり、また、当行、その子会社又は関連会社は、当資料を更新する義務を負っておりません。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。当行の書面による許可なく複製又は第三者、個人顧客もしくは一般投資家への配布をすることはできません。